

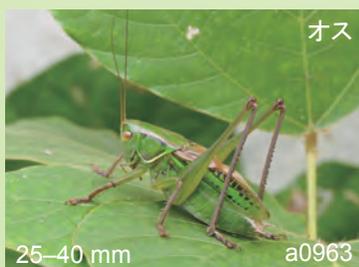
いのち  
生命のにぎわい調査団  
生命のにぎわい通信

発行：千葉県環境生活部自然保護課  
千葉県生物多様性センター  
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2  
(千葉県立中央博物館内)  
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615  
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>  
E-mail [monitor@bdcchiba.jp](mailto:monitor@bdcchiba.jp)

第56号：発行 令和2年(2020年)9月

## 千葉県に生息するキリギリス・コオロギの仲間

秋になり、庭先や道端で聞こえる虫の鳴き声が、日中から夜間にかけて鳴いていたセミ類からキリギリスやコオロギの仲間たち(主にオスが鳴きます)へと変わってきました。今号では、夏から秋にかけて鳴くキリギリスとコオロギの仲間の中から9種を紹介します。写真右下は撮影者の団員番号、種名の横の記号は千葉県レッドデータブック(RDB)のランクです。また、写真左下の数値は体長(頭頂から翅端まで)です。



ヒガシキリギリス

主に夏の日中と夜間に「ジー、チョン」と鳴く。草原や河原の土手などに生息するが、生息環境の悪化により減少している。緑型と褐色型がいる。噛まれると痛い。



クツワムシ (千葉県 RDB : C)

夏から秋にかけて、夜間に「ガチャガチャ…」とうるさく鳴く。雑木林や河川敷の藪などに生息するが、生息環境の悪化により減少している。緑型と褐色型がいる。



セスジツコムシ

夏から秋の夜間に「チチチ…、チージョ」と鳴くキリギリスの仲間。庭先、公園や林縁などに生息する。緑型と褐色型がいる。背中筋が特徴。



カネタタキ

夏から秋の日中と夜間に「チン、チン、チン」と鳴く。生け垣、公園の樹木、街路樹や林縁の樹上などで見られるコオロギの仲間。人家で見られることもある。



クビキリギス

秋に成虫が現れてそのまま越冬する。越冬後の春先から、主に夜間に「ジー…」と単調に鳴く。緑色、褐色、赤色と様々な体色の個体がいる。噛まれると痛い。



ハヤシノウマオイ

夏から秋の夜間に「スイーッチョン」と鳴く。草原、都市部の公園や雑木林に生息するが、特に林縁に多い。体色は主に緑色である。



ヤブキリ

夏から秋にかけて、「ジリジリ…」と鳴くキリギリスの仲間。成虫は樹上性傾向が強く、夜間に活動することが多い。体色は主に緑色で、噛まれると痛い。



アオマツムシ

夏から秋の夜間に、主に市街地の街路樹の上などで「リーリーリー」と鳴く。中国産の外来種であり、現在では県内のほぼ全域に分布が拡大している。



ヒメギス

主に夏の日中と夜間に「シリリ…」と鳴く。湿った草地、湿地や水田の畔などに生息する。翅の長さにより、短翅型と長翅型に区別でき、体色は緑型と黒型がいる。

参考文献

千葉県(2011). 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック 動物編-  
梶真史(2013). ポケット図鑑日本の昆虫 1400 ① チョウ・バッタ・セミ. 文一総合出版.  
奥山風太郎(2016). 鳴く虫ハンドブック-コオロギ・キリギリスの仲間. 文一総合出版.

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください  
「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

# 古典文学と里山の生き物たちの世界

## 第十回 カンタン

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をみていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、**生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。**

カンタン バッタ目コオロギ科  
学名 *Oecanthus longicauda*



コオロギの仲間のカンタンは、体長1～2cmほど。日中はクズの葉の裏などにそっとたずんでいます。その名は、透明な翅、薄い体と、夜間、「ルルルル・・・」と聴こえる雄の美しい鳴き声はかなげであることから、中国の「邯鄲の夢」の故事になぞらえて付けられたものと考えられています。江戸時代の昆虫図鑑、『虫譜』には、「邯鄲ぎす」として既にその名があらわれています。

時は紀元前、戦国時代の中国。貧しい若者である盧生は故郷を離れてさすらい、ある日、趙の国の都である邯鄲の町(今の河北省西部)の宿屋でひとりの道士に出会います。生活の困窮への不平をこぼす盧生に、道士は望みが叶うという不思議な枕を与えるのです。

盧生がその枕で眠ってみると、枕の端に穴が開いています。穴の中の世界に入っていった盧生は、名門の娘と結婚し、推薦を受けて役人となり、目覚ましい栄達を遂げてゆきます。やがて冤罪で投獄され、また赦免され、様々な紆余曲折を経てついに寿命を迎えて亡くなるのですが、そこでふと目覚めみると、そこはもとの宿屋でした。傍らには例の道士もいます。

眠りに就く前、宿屋の主人は黍を蒸していたのですが、それはまだ蒸し上がっていません。あの、数十年にも及ぶ我が身の栄枯盛衰と思えたものの全ては、実はたった一瞬の夢に過ぎなかったのです。人生の無常を悟り、欲を捨てた盧生は道士に丁寧な礼を言い、その場を去ってゆきます・・・

「邯鄲の夢」として知られるこの物語は、もとは『枕中記』という、唐代の歴史家であり作家であった沈既濟によって書かれた伝奇小説です。いわゆる「夢オチ」の元祖と言っても良いでしょう。夏から秋の夜、闇に染み透るように響くこの虫の鳴き声を耳にしたとき、いにしえの人々が思い浮かべたのは、異国のそんな夢物語だったのです。



作 石田 理紗

### <これからの季節に観察できる生きもの>

調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチョウ(黄葉)、イロハモミジ(紅葉)

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

- \* 渡りのシギ・チドリ類、両生類、爬虫類など
- \* 各種昆虫(特にバッタ、コオロギ、カマキリ)
- \* 希少生物(生息・生育数が減少している生物) 外来種の報告も受け付けています。

### 「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内

いすみ市に生息する生き物と絶滅危惧種の保護施設を観察しよう千葉県いすみ環境と文化のさとセンター周辺の林や小川で生き物の観察を行います。また、千葉県が希少種の保全対策事業として進めているミヤコタナゴやイスミスズカケの保護施設を見学し、千葉県の取り組みを学びます。

- 開催日(どちらか一日、お好きな日を選んでください)
  - ① 令和2年11月5日(木)9時30分～12時(予定)
  - ② 令和2年11月7日(土)9時30分～12時(予定)
- 定員：両日とも20名(定員を超えた場合は抽選を行います)
- 申込締切：令和2年10月23日(金)必着(郵送またはFAX)
- 詳細は申込案内書をご覧ください。